

## 【 小金井市 】 胃がん検診 平成25年度プロセス指標等一覧シート

### <国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胃部X線検査）	している

### <住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	29,995	32,707	62,702
【東京都調査による対象者率(市町村部): 57.8%】			
実際の受診者数	448	889	1,337

### <国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

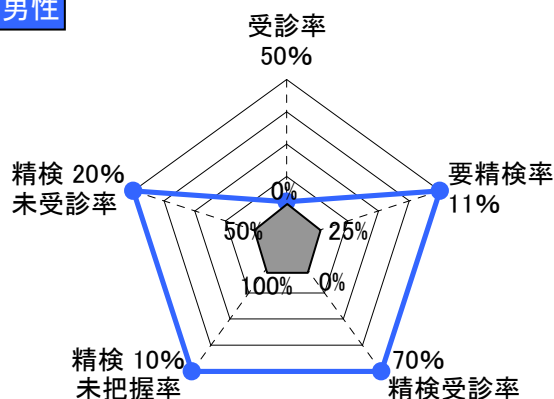
### <区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	していない

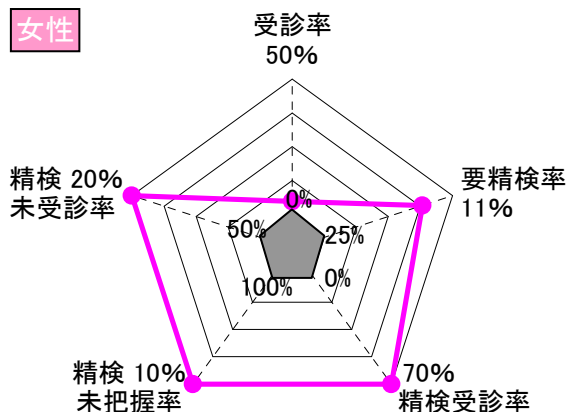
### <がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.6%	4.7%	3.7%
要精検率	11%以下	8.9%	14.3%	12.5%
精検受診率	70%以上	90.0%	92.9%	92.2%
精検未把握率	10%以下	10.0%	7.1%	7.8%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.0%以上	7.5%	0.8%	2.4%
がん発見率	0.11%以上	0.67%	0.11%	0.30%

#### 男性



#### 女性



### 【評価結果】

#### <受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

#### <要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

## 【 小金井市 】 肺がん検診 平成25年度プロセス指標等一覧シート

### <国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胸部X線検査及び喀痰細胞診）	している

### <住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	29,995	32,707	62,702
【東京都調査による対象者率(市町村部): 64.5%】			
実際の受診者数	84	92	176

### <国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

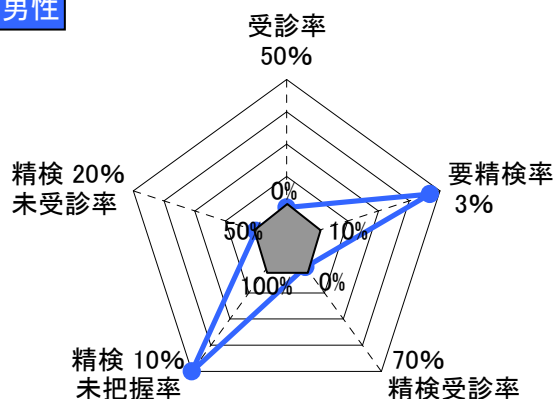
### <区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

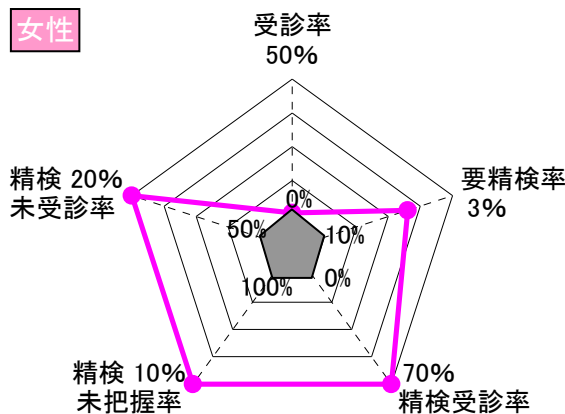
### <がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	0.4%	0.4%	0.4%
要精検率	3%以下	3.6%	5.4%	4.5%
精検受診率	70%以上	0.0%	80.0%	50.0%
精検未把握率	10%以下	0.0%	0.0%	0.0%
精検未受診率	20%以下	100.0%	20.0%	50.0%
陽性反応適中度	1.3%以上	0.0%	0.0%	0.0%
がん発見率	0.03%以上	0.00%	0.00%	0.00%

#### 男性



#### 女性



### 【評価結果】

#### <受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

#### <要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

#### <精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

#### <精検未受診率>

精検未受診率が高いため、精検受診勧奨を行うなど精検未受診者を減らす取組が重要です。

## 【 小金井市 】 大腸がん検診 プロセス指標等一覧シート

### <国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（便潜血検査（二日法））	している

### <住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	29,995	32,707	62,702
【東京都調査による対象者率（市町村部）：62.0%】			
実際の受診者数	2,114	3,701	5,815

### <国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

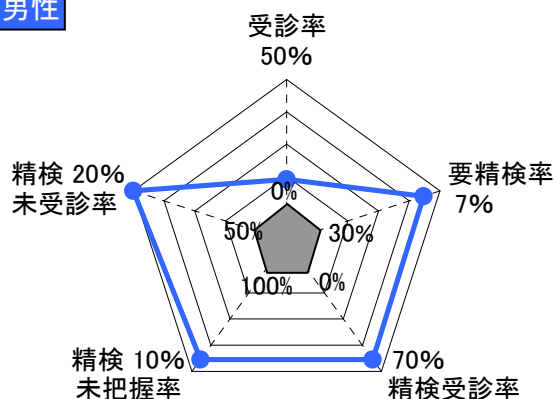
### <区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	していない

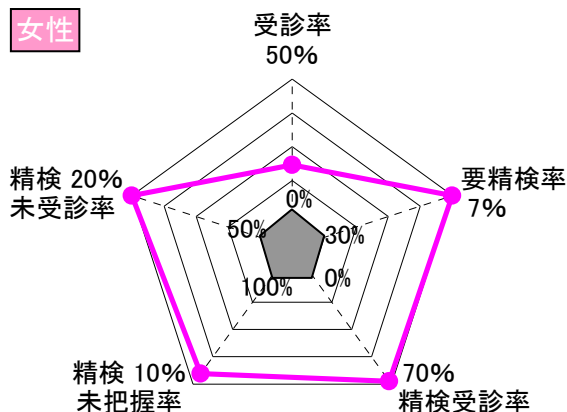
### <がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	11.4%	18.3%	15.0%
要精検率	7%以下	10.1%	7.1%	8.2%
精検受診率	70%以上	62.0%	68.2%	65.4%
精検未把握率	10%以下	20.2%	18.8%	19.4%
精検未受診率	20%以下	17.8%	13.0%	15.2%
陽性反応適中度	1.9%以上	8.5%	5.7%	7.0%
がん発見率	0.13%以上	0.85%	0.41%	0.57%

#### 男性



#### 女性



### 【評価結果】

#### <受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

#### <要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

#### <精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

#### <精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

## 【 小金井市 】 子宮頸がん検診 平成25年度プロセス指標等一覧シート

### <国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢（20歳以上：隔年）	している
検査方法（細胞診）	している

### <住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		49,368	
【東京都調査による対象者率(市町村部)：67.1%】			
実際の受診者数		2,708	

### <国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

### <区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

### <がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		15.8%	
要精検率	1.4%以下		1.8%	
精検受診率	70%以上		42.9%	
精検未把握率	10%以下		57.1%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		2.0%	
がん発見率	0.05%以上		0.04%	

### 【評価結果】

#### <受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

#### <要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

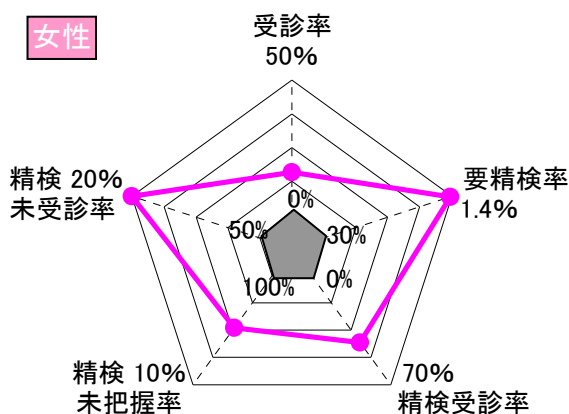
#### <精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

#### <精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

女性



## 【 小金井市 】 乳がん検診 プロセス指標等一覧シート

### <国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上：隔年）	している
検査方法（視触診及びマンモグラフィ）	している

### <住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		32,707	
【東京都調査による対象者率(市町村部)：73.1%】			
実際の受診者数		2,280	

### <国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	25～39歳、毎年
左記以外の検査の実施	視触診のみ(上記年齢対象)

### <区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	一部該当

### <がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		17.9%	
要精検率	11%以下		11.5%	
精検受診率	80%以上		74.4%	
精検未把握率	10%以下		11.1%	
精検未受診率	10%以下		14.5%	
陽性反応適中度	2.5%以上		3.1%	
がん発見率	0.23%以上		0.35%	

### 【評価結果】

#### <受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

#### <要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

#### <精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

#### <精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一步です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

#### <精検未受診率>

精検未受診率が高いため、精検受診勧奨を行うなど精検未受診者を減らす取組が重要です。

